

五戸総合病院での研修を終えて

大阪公立大学医学部附属病院
2年次初期研修医 和田夏実

私は、令和5年7月の1か月間、五戸総合病院にて地域医療研修をさせて頂きました。大阪公立大学医学部附属病院2年次初期研修医の和田夏実と申します。この1か月を振り返ると、ここでの研修を選択して本当に良かったと思います。

五戸総合病院では、急性期から慢性期の患者様が入院しており、肺炎や尿路感染症などの内科的疾患、がんの手術や化学療法で入院されている方など多岐に渡っていました。そして、その内科・外科の患者様全員を安藤院長が一人で主治医されているのに驚きました。地域医療では一般的な病気の診断と治療ができる、何でも相談できる医師の存在が大変重要だと感じました。大阪の急性期病院で働いていると、病状が落ち着いた患者さんをリハビリ目的に転院とすることがあります。しかし、ここでは急性期の治療が終われば、そのままリハビリまで行っていました。町で唯一の総合病院であるからこそ、地域特有のニーズがあり、それについて考える機会を得ることができました。

研修では、普段働いている環境と異なるため、慣れないこともありました。初日に特に困ったのは、初めての紙カルテでした。検査や点滴の指示の出し方を院長に教えていただいたのですが、特に印象に残っているのは、指示を出すときに必ず看護師さんに伝える必要があるのでコミュニケーションが大事だということです。電子カルテだと明日採血の患者さんは検索すれば一覧がすぐに出てきますが、紙カルテだと検索はできません。この1か月は、いつも以上に看護師さんとのコミュニケーションが大事だと感じました。看護師さんはとても親切で、患者さんの方言に困ったり、業務で分からないことがあれば、すぐに声をかけて下さいました。

また、病院外では、訪問診療や警察署での死体検案を経験させて頂きました。訪問診療では、寝たきりで通院が難しい人々に対しても適切な医療ケアを提供する手段があることを学びました。訪問診療でも、外来診療でも、患者さんの生活状況や病状についてお話しすることで、信頼関係が深まることは変わらないと感じました。

外科研修としては、手術の執刀をさせて頂く機会もありました。今まで、助手としてしか手術には参加したことがなく、電気メスの使い方も分からない状態からのスタートでしたが、安藤先生に丁寧にご指導頂きました。私は来年以降、産婦人科に進む予定であり、地域研修で手術に参加できたのは貴重な経験でした。今回の研修で学んだことを将来の糧にしていきたいと思います。

最後になりますが、今回の研修では、医療現場の実務だけでなく、地域社会とのつながりや地域特有の課題にも目を向ける重要性を学びました。日々ご指導くださった安藤先生、いつも診療のサポートして下さった看護師さん、患者情報を共有し、適切な提案をして下さった薬剤師、技師、栄養科の方々、様々な面でのサポートをして下さった事務の方々には大変お世話になりました。これからは、五戸総合病院で経験したことを活かし、患者さんに寄り添った医療を提供できる医師になりたいと思います。誠にありがとうございました。